関西学院大学大学院理工学研究科

2026 年度入学試験

（二次：2026 年 2 月 26 日実施）

専門科目

建築学専攻

計画・歴史系（論文論述）

（13:10–15:10　120 分）

【試験にあたっての注意】

1. 筆記用具以外はカバンに入れ、カバンは床の上に置くこと。
2. 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、音楽プレーヤー等の音の出る機器の電源を切ること。
   なお、アラームを設定している人は解除してから電源を切り、カバンにしまうこと。
3. 時計のアラームは解除すること。携帯電話を時計として使用することは認めない。
4. 試験の途中退出は認めない。ただし、やむを得ない場合は挙手し監督者に知らせること。
5. 不審な言動は慎むこと。不正行為が発覚した場合、全科目を 0 点とする。
6. 試験用紙は以下の構成となっている。
   ①　問題冊子 1 冊
   ②　選択問題調査書、解答用紙
7. 指示があるまで問題冊子および解答用紙を開かないこと。
8. 解答用紙のホチキスは、はずさないこと（提出時もホチキス留めのまま提出すること）。
9. 各問題は、所定の解答用紙に解答すること。
10. 解答にあたっては、問題冊子および解答用紙に書かれた注意に従うこと。
11. 解答用紙には、氏名は記入せず、受験番号のみを記入すること。
12. 原則、解答用紙の裏面使用は不可。やむを得ず解答欄が不足する場合は＜裏面に続く＞と記載することで、裏面への記載を認める。
13. 試験終了後、問題冊子は各自持ち帰ること。

以上

［建築学専攻（専門科目「計画・歴史系」）］

４題から２題を選択し、解答用紙に添付された選択問題調査書の所定欄に、選択・解答する問題を〇で囲むこと。
選択した問題に対応する所定の解答用紙を使用すること。

＜専門科目：計画・歴史系（1/4）＞

問題Ⅰ

（1）図書館の建築計画に関して、以下の①～④の語をそれぞれ説明しなさい。

①サント・ジュヌヴィエーヴ図書館
②保存図書館
③出納システム
④ブラウンジングコーナー

（2）図書館の建築計画の要点に関して、以下の①～③の3つの観点からそれぞれ述べなさい。

①変化への対応
②平面計画における方針
③管理・運営面からの要求

＜専門科目：計画・歴史系（2/4）＞

問題Ⅱ

（1）住区基幹公園である以下の 3 つの種別の公園について、それぞれの公園の目的と標準的な面積規模や圏域などについて述べなさい。

・街区公園

・近隣公園

・地区公園

（2）以下は一般的な街区公園である。このような公園の今日的課題を指摘し、今後も“使われ活きる公園“とするために必要だと考える施策を述べなさい。

図の出典：国土交通省「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言参考資料【事例編】」令和 4 年 10 月 31 日参考資料

＜専門科目：計画・歴史系（3/4）＞

問題Ⅲ

（1）現代的な都市の景観に関する課題について、具体例をあげて説明しなさい。

（2）上記(1)で指摘した都市の景観に関する課題に対して実施するべき方策のあり方について論じなさい。

＜専門科目：計画・歴史系（4/4）＞

問題Ⅳ

日本の古代寺院の伽藍配置に関して、その特徴や変遷などについて、以下のキーワードを用いて述べなさい。必要であれば、図を用いて説明しても構いません。なお、使用したキーワードには下線を引くこと。

飛鳥寺／四天王寺／川原寺／法隆寺／薬師寺／東大寺／定陵寺（高句麗）／ 定林寺（百済）／一塔一金堂／一塔二金堂／一塔三金堂／二塔一金堂／回廊

出題意図

・建築計画、建築史・都市史、都市計画やまちづくりに関する専門的な知識を確認する。
・建築様式やビルディングタイプの特徴およびその成立の経緯や歴史的背景に関する理解度を確認する。
・知識の暗記だけでなく、自分の意見を交えて論述する力を確認する。
・今後の都市計画やまちづくりに対する提案力を確認する。

＜計画･歴史系＞専門科目　解答例

問題Ⅰ　(1)

①　アンリ・ラブルーストの設計により 1850 年に完成したパリの公共図書館。もともとはサント・ジュヌヴィエーヴ・ド・パリ修道院に付属した図書室であったが、フランス初の専用公共図書館として独立した。鋳鉄製の柱とアーチによる、天井が高く広々とした明るい空間が特徴的である。その後、アンリ・ラブルーストはサント・ジュヌヴィエーヴ図書館を発展させ、1868 年に、こちらも広く明るく美しい閲覧室が有名なフランス国立図書館リシュリュー館読書室を完成させる。

②　デポジット・ライブラリーとも呼ばれ、図書資料の際限ない増加に対応するため、利用頻度が下がった図書や学術資料を集めて効率的に長期保管・保存することに特化した施設。既存図書館において利用頻度の高い資料のためのスペースを確保するとともに、過去の資料を後世に伝える役割がある。

③　出納システムとは、図書館利用者が目的とする資料を入手する手続き方法のことで、大きくは開架式と閉架式に大別され、中間的な方式として、安全開架式、半開架式がある。開架式は書架から自由に本を取って拾い読み（ブラウジング）できる方式で、自由開架式とも呼ばれる。閉架式は、閲覧者は書架がある室に入れず、読みたい本を館員に伝えて取り出してもらう方式。安全開架式は利用者が図書資料を自分で書架から取り出し、貸出記録を館員に提出してから利用する方式。半開架式は、利用者は本の背表紙を見ることができるが出納は館員に依頼する方式である。出納システムの選択は、閲覧室と書架、書庫の位置関係を決める重要な事項であり、一つの図書館で複数のシステムが併用される場合もある。

④　くつろいだ雰囲気で新聞や雑誌等の軽読書がおこなえるスペースのこと。

問題Ⅰ　(2)

①　図書館の蔵書類は毎年着実に増加するため、書庫などの増築を考慮しておかないと図書館機能に支障をきたし、機能的耐用年数で建築寿命が決まってしまう。そこで変化への対応をあらかじめ十分に検討しておくことが必要である。変化への対応例として、大阪府立中之島図書館（1904 年開館）は、当初は人工照明が充実していなかった戦前の図書館に一般的であった十字型プランであったが、このプランタイプは三方向に増築可能で成長と変化に対応しやすいという特徴を持ち、数回の増築を重ねながら 100 年にわたって機能を維持している。また、国立国会図書館は、1961 年に建設された本館は収蔵能力が 450 万冊であったが、中央に書庫、周囲に事務棟を配置したため増築ができず、1986 年に収蔵能力 750 万冊の新館を増築した。さらに 2002 年には収蔵能力 600 万冊の関西館が開館し、ここでは後方への増築により最大 2000 万冊まで収蔵可能なように計画がされている。

②　図書館の平面計画の方針としては、以下の点を考慮すべきである。
(1) 増築しやすい平面であること。平面的な広がりを持たせた単純なプランが理想的である。
(2) あらかじめ増築計画を立てておくことが望ましい。増築の方法としては①側方増築、②上方増築、③別棟増築の 3 通りがあるが、別棟増築が多い。
(3) 開館後の手直しや間仕切の変更は必ずあると想定する必要があるため、固定壁を極力少なくする。
(4) 柱間寸法の検討を慎重に行う必要がある。書架や家具の配置からは無柱空間が理想であるが、通常の事務室などより床荷重が大きいので、スパンを大きくするのは構造的に不利である。
(5) 一般には書架一連の呼び寸法（750mm、900mm 等）を基準として柱間寸法を決める。

③　管理・運営面からの要求に対しては、以下のような点について考慮することが重要である。
(1) 少数の館員で運営でき、管理・運営費が節減できるようにするとともに、館員が本来のサービスに集中できる平面計画が重要で、具体的には下記の項目を考慮する必要がある。
①視線の死角がなく、トラブルに気づきやすいようにする。
②各室の配置を明快にし、館員に頼らなくても利用者が自分で行動できる。
③階段やスロープをなくし、図書の運搬に支障がないようにする。これはバリアフリーの観点からも重要である。
④利用者と館員の動線を明確に分離する。
⑤利用者の入口は原則として一つにしぼる。
⑥ワンフロアの面積を極力大きくし、階数を少なくして各部門が一つの階に収まるようにする。それが館内の分かりやすさ、動線の短縮化、サービスの向上につながる。
⑦閲覧室カウンターと書庫の動線はできるだけ短縮する。書庫の配置や往復動線は、図書資料の運び方を考慮して計画する必要がある。
(2) 上記の条件を満たす平面は単純になりやすいが、単純さを嫌ってむやみに凹凸や曲面を採用したり、床に段差をつけたりしたような図書館は、利用者、館員双方に評判が悪いことが多い。
(3) 図書館の主要な機能が置かれる「主階」という設けるという考え方が重要であり、地域図書館では貸出部門を、広域図書館であればレファレンス機能を置くようにする。

問題Ⅱ

(1)住環境、都市施設である公園への知識を問う

国土交通省　都市公園の種類　より

都市公園の種類

種　　類	種　　別	内　　容
住区基幹公園	街区公園	主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で１箇所当たり面積0.25haを標準として配置する。
	近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で１箇所当たり面積２haを標準として配置する。
	地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で１箇所当たり面積４haを標準として配置する。都市計画区域外の一定の町村における特定地区公園（カントリーパーク）は、面積４ha以上を標準とする。

(2)人口構成の変化、人口の偏在など地域課題や、行政の財政など公園の抱える課題はさまざまである。それら都市的課題を指摘し、解決策を提案するという知識と分析、考察力を問う。

　国土交通省「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言　参考資料【事例編】」、「使われ活きる公園　実践のヒント-都市公園の柔軟な利活用に向けた実践事例集」などで示されている指摘を参照

問題Ⅲ

（1）現代的な都市の景観に関する課題について、具体例をあげて説明してください。
（2）上記(1)で指摘した都市の景観に関する課題に対して実施するべき方策のあり方について論じなさい。

◆解答例
例えば、以下のような課題に関する項目、対応方策に関する項目が記述されていること。
・歴史的な都市の空間における新規建築物の建設と建築物の規制のあり方
・屋外広告物の構成要素と色彩、大きさ、内容等に関する規制のあり方
・都市内の緑地の構成と区域内の公園及び緑地のネットワークの形成

問題Ⅳ

日本に正式に仏教が入ってきた後に営まれた最初の本格的な寺院は飛鳥寺（588-596 建立）であり、その伽藍配置は塔を中心にして北に中金堂、左右にそれぞれ東金堂、西金堂を配置した一塔三金堂形式であった。百済の工人による造営であったが、百済には一塔三金堂形式の寺院は見られず、4 世紀末～5 世紀初に創建された高句麗の定陵寺が一塔三金堂形式の伽藍配置をとっており、飛鳥寺との関係が注目される。

593 年に造営が始まったとされる四天王寺は、中門、塔、金堂、講堂が南北に一直線に並ぶ一塔一金堂形式の伽藍配置であり、四天王寺式伽藍配置とも呼ばれる。同時期の百済では、6 世紀中頃の創建とされる定林寺などが、中門、塔、金堂、講堂が一直線に並ぶ形式であり、四天王寺式伽藍配置も朝鮮半島との関係が注目される。

7 世紀中期に建立されたとされる川原寺では、塔、中金堂、西金堂が鼎立する一塔二金堂形式で、中門から伸びる回廊が塔と西金堂を囲み、北の中金堂にとりつき、講堂は中金堂の後方に置かれている。またほぼ同時期に建立された法隆寺西院伽藍は、一塔一金堂形式であるが、塔と金堂が東西に並べられ、その前方の中門から出た回廊が塔、金堂を囲んで閉じている。川原寺や法隆寺の伽藍配置は、先行する飛鳥寺や四天王寺に見られた左右対称の配置をとらず、非対称の配置形式となっているのが特徴である。

その後、680 年代に建立された薬師寺の伽藍配置は、金堂を中心にして前面に東西二つの塔が配置され、中門から伸びる回廊がこれらを囲んで金堂後方の講堂にとりつく二塔一金堂形式となっている。前の時代に非対称の形式となった伽藍配置が再び対称形の配置となり、この薬師寺の形式が以後の奈良時代の伽藍配置の基本形となった。薬師寺では二塔が金堂とともに回廊に囲まれているが、その後、塔が回廊の外に建てられる配置が採用されるようになり、金堂院と塔院が分かれ、塔院が独立し、その位置も自由に選ばれるようになっていく。このような形式の伽藍配置として、興福寺や東大寺がある。

（図は、著作権の関係により、公開しません。）